

報道発表資料

令和6年8月7日  
独立行政法人国民生活センター

## ヘアアイロンによる子どものやけどに注意！

### 1. 目的

熱によって髪型を整える理美容器具のうち、高温となった部分を髪に直接触れさせるものとして「ヘアアイロン」(写真1)があります。

医療機関ネットワーク<sup>(注1)</sup>には、2019年度以降の5年間あまり<sup>(注2)</sup>に43件<sup>(注3)</sup>のヘアアイロンによるやけどの事故情報が寄せられており、事故の多くは、保護者が使用したヘアアイロンを子どもが触れてしまうことによってやけどを負った事例でした。

そこで、医療機関ネットワークに寄せられた事故情報等を基に、ヘアアイロンの温度に関するテストを行い、子どものやけどについて情報をまとめ、消費者に注意喚起することとしました。

(注1) 消費者庁と国民生活センターとの共同事業で、消費生活において生命または身体に被害が生じた事故に遭い、参画医療機関を受診した事故情報を収集するもので、2010年12月から運用を開始しました。

(注2) 2024年5月31日登録分まで。

(注3) 件数は本公表のために特別に精査したものです。



※写真の商品は事故事例とは関係ありません。

写真1. ヘアアイロンの例

### 2. 実施期間

検体購入：2024年5月

テスト期間：2024年5月～6月

### 3. ヘアアイロンについて

ヘアアイロンは主に、熱したプレート同士で髪を挟みながらスライドさせて髪型を整える「ストレートタイプ」、クリップで挟んだ髪を熱したパイプに巻き付けながら髪型を整える「カールタイプ」、ストレートタイプとカールタイプの両方に対応する「2WAYタイプ」、ヘアブラシのような形状の「ブラシタイプ」があります(写真2)。プレートやパイプの設定温度を2段階、3段階、あるいは5℃～10℃刻みで段階的に設定し、最高温度を200℃～230℃の高温に設定できる商品のほか、電源を入れてから一定時間経過後に自動で電源が切れる機能、使用後にプレートを露出しないようにするロック機能を有する商品等があります。



※写真の商品は事故事例とは関係ありません。

写真2. ヘアアイロンの種類

#### 4. 医療機関ネットワークに寄せられた事故情報

##### (1) 事故の概要

医療機関ネットワークには、2019年度以降の5年間あまりに43件のヘアアイロンによるやけどの事故事例が寄せられており、そのうち、約7割(30件)が0歳~2歳の子どもの事例でした。また、手指、手掌(手の平)・手背(手の甲)を受傷した事故が多く、保護者等が使用したヘアアイロンを子どもが触りやけどを負った事例や、洗面台等の子どもの手の届く高さに置いてあるヘアアイロンの電源コードを子どもが引っ張って落下させてしまったことでやけどを負った事例もありました。

##### 1) 年齢別

事故事例を年齢別にみると、0歳~2歳が全体の約7割(30件)を占めており、そのうち、1歳の事故事例が18件で最も多く、全体の4割以上を占めていました(図1)。

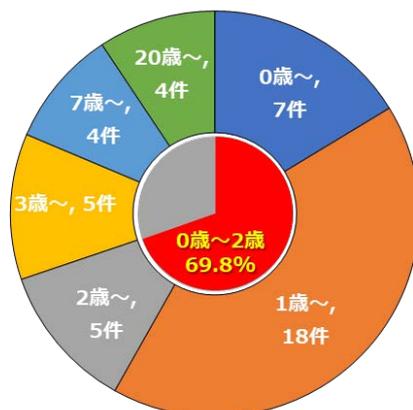


図1. やけどをした人の年齢の内訳 (n=43)

##### 2) 危害部位別

事故事例を危害部位別にみると、手指、手掌(手の平)・手背(手の甲)を受傷した事故が多く、いずれも使用中、又は使用直後のヘアアイロンの高温部(プレートやパイプ、筐体)に触れる、握る等して受傷したものでした(図2)。

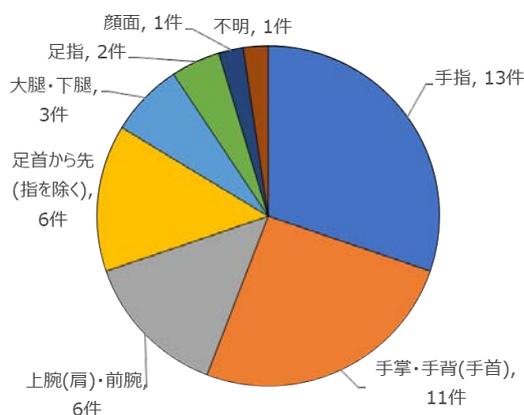


図2. 危害部位別 (n=43)

### 3) 治療・処置の内容

どの事故事例も受診した医療機関で何らかの治療や処置を受けており、43 件中 32 件 (74.4%) の処置の内容は「要通院」でした。また、「要入院」も 1 件ありました (図 3)。

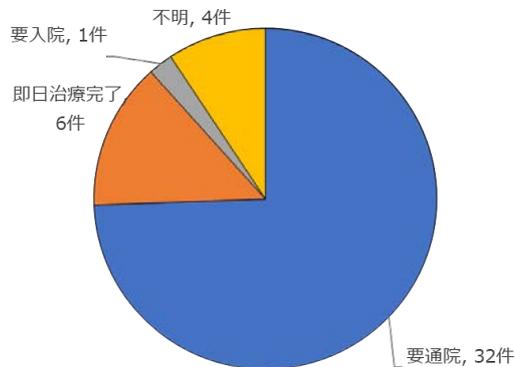


図 3. 治療・処置の内容 (n=43)

### (2) 主な事故事例

#### 【事例 1】

使用後のヘアアイロンを浴室のドアのタオル掛けに吊るしていたところ、子どもの手にあたってやけどを負った。ヘアアイロンは 180℃で使用後、電源を切ってから 5 分以内であった。左手背に水疱<sup>すいほう</sup>を認めていた。

(事故発生年月：2024 年 1 月、2 歳 6 カ月、男児)

#### 【事例 2】

電源が入った状態のヘアアイロンを洗面台の上に置いていた。歯磨き中の母の横にいた子どもがコードを引っ張り、ヘアアイロンが子どもの腕に落下した。左手背、左前腕をやけどした。

(事故発生年月：2023 年 11 月、1 歳 6 カ月、男児)

#### 【事例 3】

洗面台のタオル掛けにヘアアイロンをかけていたところ、子どもが触ってしまった。電源は入れたままで 200℃であった。左手掌、手首をやけどした。

(事故発生年月：2023 年 9 月、1 歳 0 カ月、男児)

#### 【事例 4】

普段は手の届かないところに置いているが箱を台にして使用後のヘアアイロンを触ってしまった。左手の指先に水疱あり。

(事故発生年月：2022 年 11 月、1 歳 10 カ月、男児)

#### 【事例 5】

普段は子どもの手の届かないようにしているが、使用前に洗面所で温め中のヘアアイロンを子どもが引っ張り、子どもの左上腕にあたってしまった。左上腕に 30×20mm 大の水疱あり。

(事故発生年月：2020 年 7 月、1 歳 10 カ月、女児)

## 5. テスト

### (1) テスト対象銘柄

インターネット通信販売で「ヘアアイロン」で検索した際に上位に表示された商品や、東京都、神奈川県内の複数の家電量販店で販売されていた商品から8社13銘柄（購入価格：990円～17,600円（税込））をテスト対象としました（写真3、表1）。



※写真の商品は事故事例とは関係ありません。

写真3. テスト対象銘柄の外観

表1. テスト対象銘柄一覧

No.	アイロンタイプ	設定可能な最高温度表示
1	ストレート	200℃
2	ストレート	180℃
3	ストレート	220℃
4	ストレート	220℃
5	ストレート	180℃
6	ストレート	200℃
7	ストレート	230℃
8	カール	180℃
9	カール	200℃
10	カール	200℃
11	2WAY	220℃
12	2WAY	180℃
13	ブラシ	210℃

### (2) やけどについて

ISO 13732-1:2006<sup>(注4)</sup>によると、人の皮膚が高温の表面に接触してやけどが生じるか否かは、表面の温度、表面の材料、皮膚と表面が接触する時間、表面の構造、表面と接触する人の感度が最も重要なものとされており、表面温度が高いほど、熱伝導性の良いほど（例：金属>ガラス>プラスチック）、接触時間が長いほど、表面が平滑なほど、大人より子どもであるほど、やけどを負う危険性が高くなります。また、子どもは、高温表面との接触後に逃れようとする反応に時間を要するため、少なくとも4秒の接触時間を想定しなければならないとされています<sup>(注5)</sup>。さらに、ヘアアイロンの高温部（プレートやパイプ、筐体）に広く用い

られているセラミック、プラスチックに接触した際にやけどを生じ得る温度の閾値<sup>しきいち</sup>として、4秒間接触した場合にはセラミック等は71℃、プラスチックは75℃とされています（表2）。

そこで、テストでは子どもがヘアアイロンの高温部を4秒間触った際にやけどが生じ得る温度として、71℃を閾値<sup>しきいち</sup>としました（注6）。

表2. 接触時間とやけどの温度閾値（ISO 13732-1:2006 より一部抜粋）

材料	0.5秒	1秒	2秒	4秒
セラミック、ガラス及び石材料	83℃	79℃	75℃	71℃
プラスチック	90℃	85℃	80℃	75℃

(注4) ISO 13732-1:2006 “Ergonomics of the thermal environment - Methods for the assessment of human responses to contact with surfaces - Part1: Hot surfaces”（邦訳：『温熱環境の人間工学－表面接触時の人体反応の評価法－ 第1部：高温表面』）

(注5) ISO 13732-1:2006では、24カ月までの子どもの場合は、やけどを起こし得る表面から逃れる反射が十分に早くないため、接触時間が15秒になり得るとされています。

(注6) ISO 13732-1:2006に記載された各材料での熱傷閾値のばらつきの下限值としました。

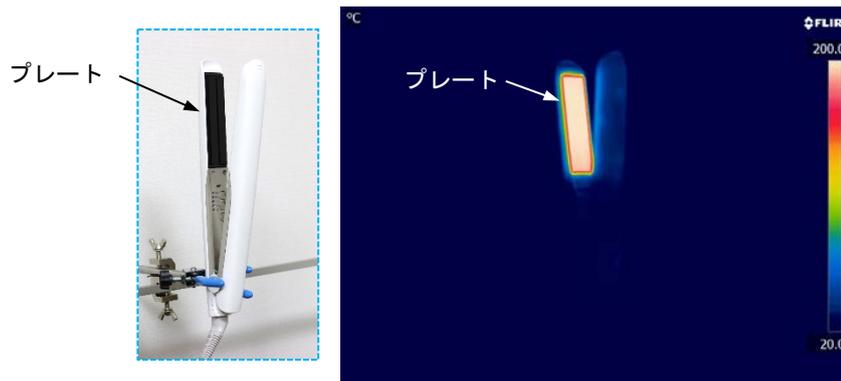
### （3）プレートやパイプ等の加熱面の温度の調査

各銘柄で設定可能な最高温度に設定し、プレートやパイプ等の最も高温となる加熱面の温度変化、加熱面が最高温度に達してから一定時間経過し電源を切った後の温度変化、加熱面周辺の筐体表面の温度変化を、温度約25℃、湿度約50%の環境下でサーモグラフィにて測定しました（写真4、5）。



※写真の商品は事故事例とは関係ありません。

写真4. テスト風景



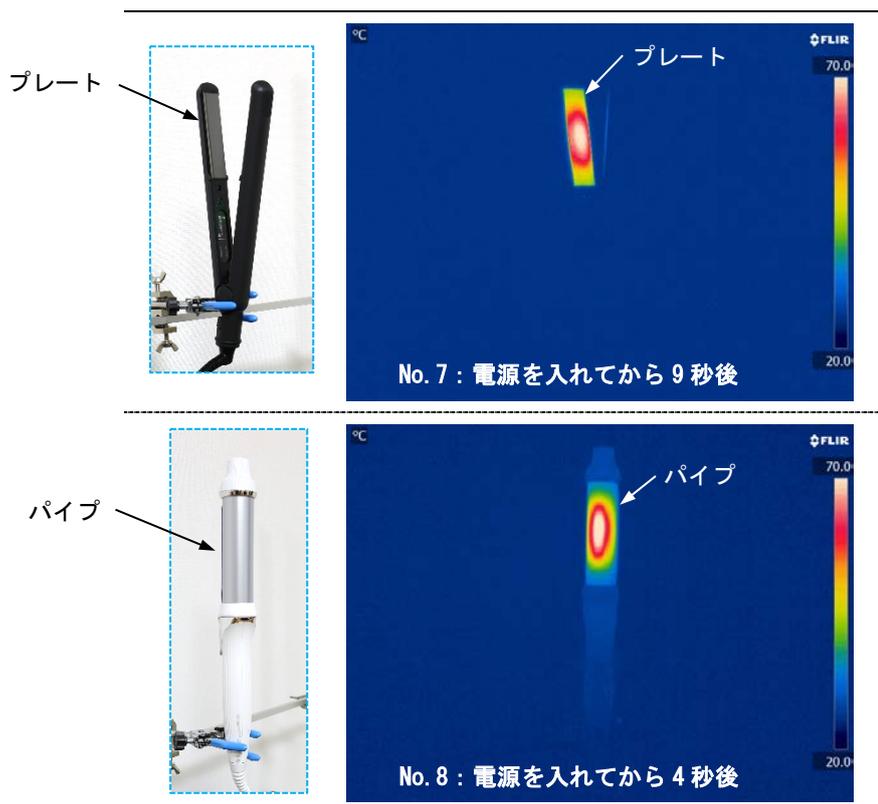
※写真の商品は事故事例とは関係ありません。

写真5. サーマグラフィでの測定例

1) プレート、パイプ等の加熱面の温度変化

プレート、パイプ等の加熱面は約4秒～64秒で71℃に達しました

いずれの銘柄も電源を入れた直後にプレート、パイプ等の加熱面の温度は急上昇し、最も早く71℃に達したのもでは4秒、最も遅かったものでも64秒で、商品タイプ、加熱面の形状や材質、消費電力等により違いがみられました（写真6、表3）。



※写真の商品は事故事例とは関係ありません。

写真6. 電源を入れた直後の様子（一例）

表 3. 電源を入れてから 71°Cに達するまでの時間

No.	電源を入れてから 71°Cに達するまでの時間
1	11 秒
2	13 秒
3	9 秒
4	5 秒
5	15 秒
6	16 秒
7	9 秒
8	4 秒
9	8 秒
10	9 秒
11	25 秒
12	64 秒
13	26 秒

電源を切った後に 71°C以下になるまで平均で 10 分以上かかりました

実際の使用環境を想定し、プレート、パイプ等の加熱面の温度が最高温でほぼ一定となつてから 5 分経過後に電源を切り、プレート、パイプ等の加熱面の温度変化を観察したところ、71°C以下になるまでの時間は平均 10 分 36 秒で、最も長いものでは 17 分 51 秒でした (図 4)。

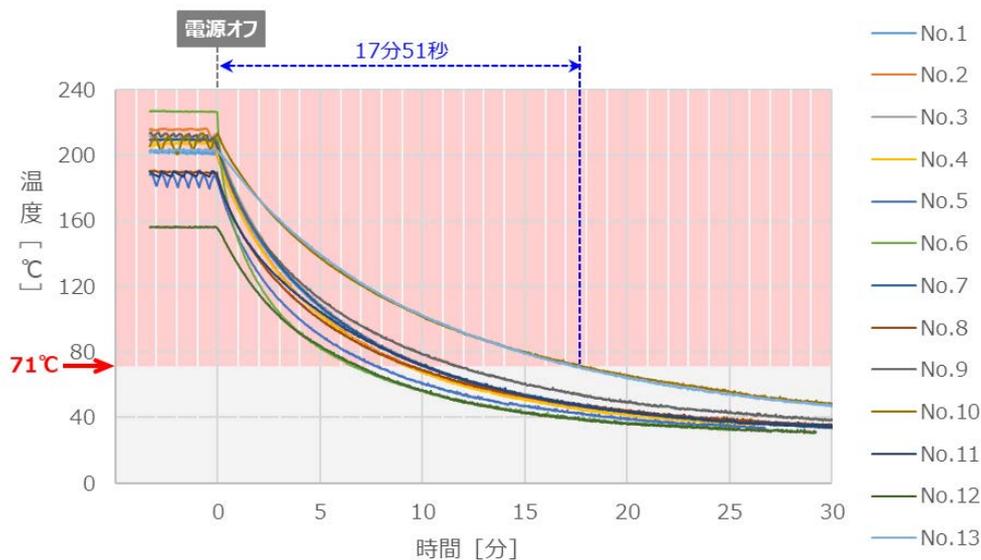
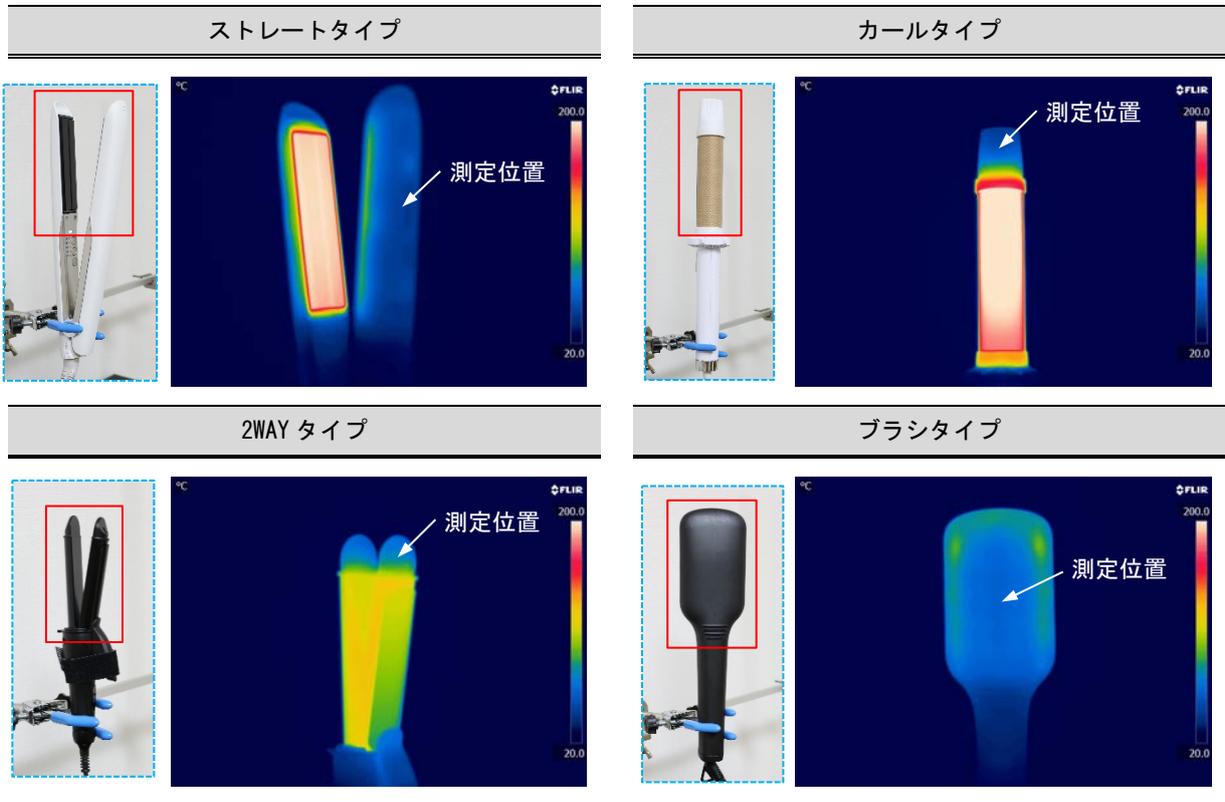


図 4. 電源を切った後の加熱面の温度変化

2) 加熱面以外の筐体の温度変化

加熱面以外の筐体の温度は多くの銘柄で 71°Cに達し、最高で 117°Cまで上昇しました  
医療機関ネットワークには、ヘアアイロンの高温部 (プレートやパイプ、筐体) を握っ

てやけどを負った事例もみられたことから、プレートやパイプ等の加熱面以外に触れることを想定し、プレートやパイプ等の加熱面の温度が最高温でほぼ一定となつてから5分経過後に電源を切り、管体の温度変化を調べました（写真7）。その結果、管体の温度は多くの銘柄で71℃に達し、最高で117℃まで上昇する銘柄もみられました（図5、表4）。



※写真の商品は事故事例とは関係ありません。

写真7. 温度測定位置の例

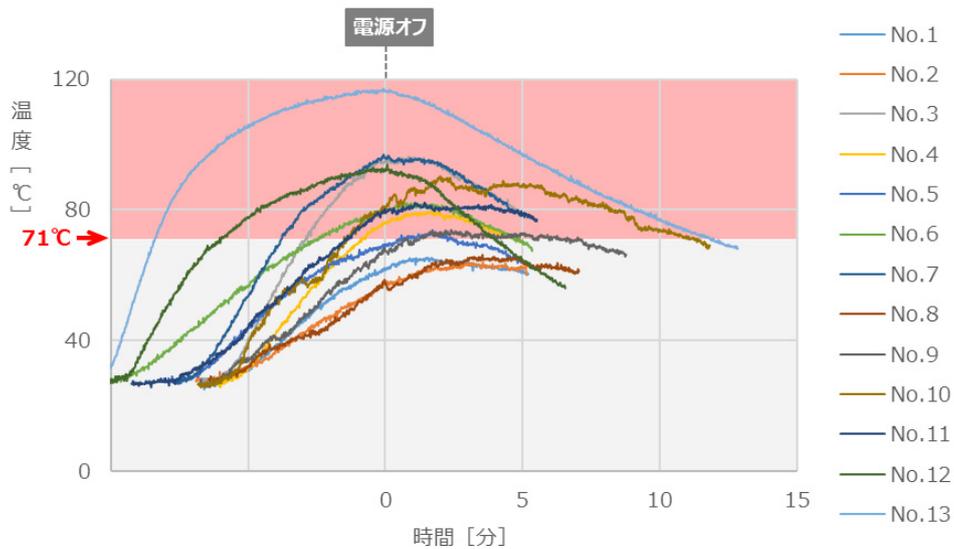


図5. 加熱面以外の管体の温度変化

表 4. 加熱面以外の最高温度

No.	加熱面以外の最高温度
1	65°C
2	64°C
3	96°C
4	80°C
5	74°C
6	82°C
7	97°C
8	66°C
9	74°C
10	90°C
11	82°C
12	94°C
13	117°C

#### (4) 表示の調査

各銘柄の取扱説明書に記載されている注意表示、本体あるいは付属のタグに記載されている注意表示等を調査しました。

##### すべての銘柄で使用中はプレートやパイプ付近に触れない旨の表示がありました

各銘柄の取扱説明書に記載されている警告表示や注意表示を調べたところ、すべての銘柄で使用中は高温となるプレートやパイプ付近に触れない旨の表示がありました(表5)。また、高温となる部分をイラストで表示しているものもありました。

表 5. 高温部に触れない旨の取扱説明書の表示（一例）

警告表示
特にひたいや襟足などの近くで使用の際は、高温部が皮膚に触れないようにする。 やけどの原因となります。
プレートの金属部分は高温になっていますので、直接肌に触れないようにしてください。やけどの原因となります。見えにくい部分、首筋や頬まわりの髪、前髪にアイロンをかけるときなどは十分に注意してご使用ください。
●パイプやプレート部分は高温になっていますので、使用中や使用直後は直接肌に触れさせないでください。やけどの恐れがあります。
使用中、使用後はアイロン部や、アイロン部まわり、本体の先端の高温部に触らない、肌（耳や額、襟足など）に触れさせない。やけどの原因となります。グリップ位置をもってお使いください。
注意表示
やけどを防ぐために ●使用時やクールダウンの間は 部は高温になっているので触れない ●高温部を肌（耳やひたい、エリ足など）に触れさせない ●使用者自身の髪の手入れ以外に使用しない（他の人やペットなどへの使用はしない） ●乳幼児への使用はしない（やけどの原因）
使用中または使用直後はプレート及びその周辺部は非常に熱くなっているため、直接手や肌に触れないようにする。 ◇火傷・感電・ケガの原因。
使用直後は、プレート及び周辺部は非常に熱くなっているため十分に冷めるまで触れない。 ◇火傷・ケガの原因。
使用時や使用直後は、ブラシ部分、本体とその周辺は高温になっているため、直接肌に触れない。 やけどの原因となります。

高温部に触れない旨を本体に印字しているものや、電源コード付属のタグに記載しているものがありました

各銘柄の本体表示や電源コード付属のタグの表示を調べたところ、高温部に手を触れない旨を本体に印字しているものや、タグに記載しているものがありました（表 6、写真 8）。

表 6. 高温部に触れない旨の本体及びタグの表示（一例）

△注意 やけどのおそれあり 高温部のアイロン板などに肌や手を触れない
△注意 やけどの恐れあり。 プレート部とその付近は高温になります。やけどにご注意ください。
高温注意 パイプ及びパイプ周辺部分は大変高温になります。 ご使用には充分ご注意ください。



写真 8. 電源コード付属のタグ（一例）

すべての銘柄で子どもに使用させない、子どもの手の届く場所に保管しない旨の表示がありました

各銘柄の取扱説明書に記載されている警告表示や注意表示を調べたところ、すべての銘柄で子どもに使用させない、子どもや乳幼児の手の届く場所に保管しない旨の表示がありました（表 7）。

表 7. 子どもの安全に関する取扱説明書の表示（一例）

警告表示
<ul style="list-style-type: none"> <li>●使用中やクールダウンの間は特に、乳幼児の手の届かない範囲に置く</li> <li>●安全に責任を負う人の監視または指示がない限り、補助を必要とする人（子供を含む）だけで使用させないようにする</li> </ul> <p>製品で子供が遊ばないように注意する（やけど・感電・けがの原因）</p>
<p>使用者の制限</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●子供は保護者同意のうえ、保護者または専門家などの監督下で使用する。</li> </ul> <p>事故・けがの原因となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●子供の手の届かない場所に保管し、一人で使わせない。また、子供に遊ばせない。</li> </ul> <p>事故・けがの原因となります。</p>
<p>乳幼児の手の届かない場所に保管し使用させない。</p> <p>◇火傷・感電・ケガの原因。</p>
<p>安全に責任を負う人の監視または指示がない限り、補助を必要とする人や子供だけで使わせない。</p> <p>感電・けが・やけどの原因となります。</p> <p>本品で遊ぶことがないように、お子様から目を離さない。</p> <p>感電・けが・やけどの原因となります。</p>
注意表示
<ul style="list-style-type: none"> <li>●小さなお子様には使用させないでください。</li> </ul> <p>事故や感電、発火、やけどなどのトラブルのおそれがあります。</p>
<p>安全に責任を負う人の監視または指示がない限り、補助を必要とする人や子供だけで使わせない。</p> <p>感電・けが・やけどの原因となります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●小さなお子様には使用させないでください。</li> <li>●加熱時や冷却時は小さなお子様の手の届くところに置かないでください。</li> </ul> <p>やけどのおそれがあります。</p>

## 6. 消費者へのアドバイス

### (1) ヘアアイロンによる 0 歳～2 歳の子どもの事故が発生しています。ヘアアイロンは子どもが近づかない場所に置きましょう

医療機関ネットワークに寄せられた事故情報では、ヘアアイロンによるやけどの約 7 割が 0 歳～2 歳の子どもであり、保護者等が使用したヘアアイロンに触る等して、やけどを負った事例でした。また、洗面台等に置いてあるヘアアイロンに子どもが触れてしまったり、子どもの手が届かない高さに置いていても、身の回りのものを踏み台にしたり、電源コードを引っ張って落下させてしまうことでヘアアイロンに触れてやけどを負う可能性も考えられます。ヘアアイロンは子どもが近づかない場所に置きましょう。

### (2) ヘアアイロンのプレートやパイプは瞬時に高温になります。加熱面以外も高温になるため、取扱いには十分注意し、高温部には決して触れないようにしましょう

テストの結果、いずれの銘柄も電源を入れた直後にプレート、パイプ表面の温度は急上昇し、数秒でやけどを負う危険性のある温度に達するものもありました。また、プレート、パイプ周辺の筐体もやけどを負う危険性のある温度に達するものもあるため、取扱説明書をよく読んで高温になる部位を確認し、子どもはもちろん、使用者も決して触れないようにしましょう。

### (3) 電源を切った後でもすぐに温度は下がりません。特に子どもがいる家庭では、使用後のヘアアイロンが冷めるまでの間は置き場所にも十分注意しましょう

テストの結果、ヘアアイロンのプレート、パイプ等の加熱面だけでなく、本体の筐体の温度も電源を切った後すぐには下がりませんでした。使用中だけではなく、使用後に電源を切り 10 分以上経過しても、やけどを負う危険性が考えられます。特に子どもがいる家庭では、ヘアアイロンが十分に冷めるまでの間は、置き場所や電源コードを含めた置き方等に注意し、子どもが触れることのないようにしましょう。

## 7. 業界への要望

### (1) ヘアアイロンによるやけど事故の防止のため、引き続き消費者への注意喚起、啓発を行うよう要望します

医療機関ネットワークに寄せられた事故情報では、ヘアアイロンによるやけどの約 7 割が 0 歳～2 歳の子どもであり、保護者が使用したヘアアイロンに触りやけどを負った事例でした。使用中、使用後のヘアアイロンはやけどを負うような温度になることについて、引き続き消費者への注意喚起、啓発を行うよう要望します。

### (2) ヘアアイロンによるやけど事故のリスク低減のため、高温状態でも収納できる付属品をつける等、子どもが高温部に直接触れないような対策を要望します

医療機関ネットワークに寄せられた事故情報では、身の回りのものを踏み台にして洗面台等に置いてあるヘアアイロンに触れたり、電源コードを子どもが引っ張って落下させてしま

ったことでやけどを負った事例のほか、使用後のヘアアイロンに触れてしまってやけどを負った事例がありました。ヘアアイロンによるやけど事故のリスク低減のため、高温状態でも収納できる付属品をつける等、子どもが高温部に直接触れないような対策を要望します。

## 8. 行政への要望

### ヘアアイロンによるやけど事故の防止のため、引き続き注意喚起、啓発を行うよう要望します

医療機関ネットワークに寄せられた事故情報では、ヘアアイロンによるやけどの約7割が0歳～2歳の子どもの事例であり、保護者が使用したヘアアイロンに触りやけどを負った事例でした。ヘアアイロンの使用中はもちろんのこと、使用後であっても一定時間はやけどを負うような温度であることを認識するとともに、周囲の子どもへの配慮について、引き続き注意喚起、啓発を行うよう要望します。

#### ○要望先

こども家庭庁 (法人番号 7000012010039)  
一般社団法人日本電機工業会 (法人番号 8010005016727)

#### ○情報提供先

消費者庁 (法人番号 5000012010024)  
内閣府 消費者委員会 (法人番号 2000012010019)  
経済産業省 (法人番号 4000012090001)  
公益社団法人日本小児科学会 (法人番号 5010005018346)  
公益社団法人日本皮膚科学会 (法人番号 4010005004396)  
特定非営利活動法人 Safe Kids Japan (法人番号 5010905002878)  
公益社団法人日本通信販売協会 (法人番号 9010005018680)  
一般財団法人家電製品協会 (法人番号 5010005018544)  
一般社団法人大手家電流通協会 (法人番号 3010005035863)  
一般社団法人日本DIY・ホームセンター協会 (法人番号 8010005004343)  
オンラインマーケットプレイス協議会 (法人番号なし)  
日本チェーンストア協会 (法人番号なし)

#### 本件問い合わせ先

商品テスト部：042-758-3165